# 

右手當は一日にあんなし饅頭壱桶、真菰して壱ケ年金三百拾両づつ下し置かれ候

## 柏木村の歴史

の記録となる。今回はこの部分も読みすすめ、 繋がりも推測される。そして柏木村について との関係は不明であるが、当町と日蓮宗との 蓮宗尊顕木札」などが記されており、常円寺 の書上には、他に寛延元年(一七四八)の「日 た『町方書上』を取り上げた。「柏木成子町\_ 常円寺のある柏木村の歴史についてみておき は、「成子町」に続けて「淀橋町」について 前回は江戸時代の常円寺について記録され

## ●将軍の「御小休所」としての淀橋町

授かった川本杢右衛門の一族が名主となって いることについても触れられている。 天正十五年(一五八七)に北条氏から触書を 下では「本住坊」という寺領であったという。 の起立については、 淀橋までの領域で、 淀橋町は成子町の西側、神田上水にかかる 戦国時代、北条氏の支配 中野村と接している。

場所であったようで、青梅街道を往来する将 められた当時の十一代将軍家斉、さらに後に かれており、江戸の名所として人々が訪れる 置された「水車」について記述される。この 淀橋や水車については『江戸名所図会』に描 水にかかる橋「淀橋」。さらには、そこに設 そして、町名の由来ともなっている神田上 「御小休所」となっていたという。書上 八代将軍徳川吉宗からこの書上がまと

> 献上されたという。 水車を「御上覧」し、 水車で挽いた小麦粉が

### ●「家持 久兵衛」

家であったことによるのであろう。 担った。したがって、代々の将軍の「御小休 の弥兵衛の代の享保十七年(一七三二)三月 た人物であったという。そして、その三代目 六一〜七二)に、幕府に願い出て水車を作っ 衛」といい、淀橋の百姓で、寛文年中(一六 を有した者であるが、久兵衛の先祖は「弥兵 そこに居住して「町人」としての義務や権利 の名主である紋右衛門がとりまとめ記してい 所」の記録が久兵衛によって記されているの いる。「家持」とは文字通り自分の家屋を持ち、 しては「家持 るが、実は、この将軍家の「御小休所」に関 ところで、淀橋町の書上についても柏木村 久兵衛家がその任を代々受け持ってきた 初めて徳川吉宗の「御小休所」の役を 久兵衛」という人物が記して

#### ■久兵衛家と象

れている。 係について、 さて、書上の最後に久兵衛家と将軍家の関 次のような興味深い記録が記さ

四〇) 享保年中當國に象相渡り候ところ、元文 庭より右御小屋へ象引き取り、御飼料と 相建て、寛保元酉年四月廿七日、濱 御預け仰せ付けられ、中野村へ象小屋を より、右弥兵衛ならびに中野村源助へ象 五年申年七月中、町御奉行石河土佐守様 御

相知れ申さず候 弘め候由、右薬の製法ならび功能等の儀、 ならびに京大坂御触れこれ有りて、売り 行所へ相願い、象洞と号し候薬、関八州 相納め候由、それより弥兵衛儀、町御奉 ろ、その後故これ有り、中野村寶仙寺へ 象骨は弥兵衛、 衛門罷り越し、 皮は御取り上げに相成り候旨にて、 し候に付き御訴申し上げ候ところ、 然るところ翌戌年十二月中、象相果て申 拾五把、根笹拾五把づつ食し申し候由 源助へ下し置かれ候とこ 皮を裂き、上納致し候由

れている

翌年「相果て」て=死んでしまい、象の遺骸 年分の金三百十両が支給され、「あんなし饅 飼われていたといわれている。飼育には 野に象厩を立ててそれを飼おせられし」と象 象は「濱御庭」=将軍家の浜御殿に飼われて ち江戸に渡り、将軍吉宗が上覧したという。 ころ」とあるが、享保十三年(一七二八)中 とは、本文に「享保年中當國に象相渡り候と 野村源助」に象が預けられたという。この象 これらの骨は同じ中野村の宝仙寺に納められ は弥兵衛と源助に下賜されたという。のちに 頭」などの餌を食べさせていたようであるが、 れたというのである。江戸名所図会にも「中 いたようで、そこから弥兵衛と源助に預けら て来たもので、京都で天皇の謁見を受け、 国人貿易商が安南(今のベトナム)から連 小屋が描かれており、中野村成願寺の辺り(今 `皮が「御取り上げ」=将軍に献上され、 中野区本町二 - 三二の朝日が丘公園南) この記述によると、元文五年に弥兵衛と「中

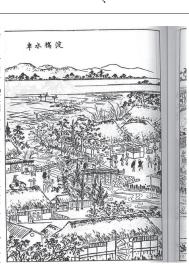
そして、その後、 弥兵衛は「象洞」という

たというのである。

薬を作り、 ると言って売り出して大もうけしたともいわ はなく涙だという説もある)を疱瘡の薬であ 名が世話にあたっていたとの記録もあり、ま 中野村での象の飼育については、押立村の平 売をしたという点は非常に興味深い。なお、 当時珍しかった象に由来させた薬を作り、商 法」や「功能」については記されていないが の薬が象とどのような関係があるのか、 ず、京都や大阪にまで売り広めたという。 た、象が生きている間にすでに象の糞(糞で 右衛門、中野村の源助、柏木村の弥兵衛の三 町奉行に願い出て、関東のみなら

弾左 象の

残すという意味も持っていたのであろう。 名主など町の有力者たちの自らの由緒ととも 地域にとっては、将軍家との結びつきという しての意味をもっていたであろうが、一方で 方書上』は、主は幕府の地域支配の一政策と 総称である。幕府の命によりすすめられた『町 風俗・産物・名所旧跡等を書き上げた書物の 題が付いている。「地誌」とは、地域の地理 方書上』には別に「地誌御調書上」という表 「淀橋町」の記録をみた。ところで、この『町 以上、今回は『町方書上』の成子町の隣の 自分たちの生活空間の歴史を文字として



の差し渡し(直径)は一丈六尺(約5粒)あったという。 江戸名所図会「淀橋水車」:下方に水車がみえる。 水車